

好まれる気温と温熱的生活習慣について

○佐々尚美*、久保博子**、磯田憲生**、梁瀬度子***

(*奈良女大・院、**奈良女大、***武庫川女大)

<目的>室内の快適気温範囲はASHRAEなどによりこれまで様々提案されている。しかし、同一の作業・着衣条件で、快適気温範囲にあるにも関わらず、快適と感じる人ばかりでなく、不快と感じる人もいる。そこで、本研究では、好まれる気温に自由に調節する選択気温実験と日常の温熱的生活習慣などについてのアンケートを同時に行い、好まれる気温の個人差と温熱的生活習慣の関わりについて検討した。

<方法>選択気温実験は奈良女子大学人工気候室を用い、不感気流、相対湿度50%一定として行った。気温は被験者自身でちょうど良いと感じる様に自由に調節した。測定は皮膚温などの生理的反応と温冷感・快適感などの心理的反応を測定について行った。また、実験前に日常の温熱的生活習慣などについてのアンケートに記入させた。

<結果>被験者自身が自由に調節した気温には個人により7~8℃の差が認められ、差が大きかった。また、好まれる気温が低い被験者は、アンケートにおいて「冷房利用時間が長い」「冷房が好き」「暖房が嫌い」「寒さに強い」と申告する傾向が見られた。逆に、好まれる気温が高い被験者は、「冷房利用時間が短い」「暖房利用時間が長い」「暖房が好き」「暖房が嫌い」「暑さに強い」と申告する傾向が見られ、好まれる気温と温熱的生活習慣の関係が示唆された。